

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 1
No.353

謹賀新年

2023年新年あけましておめでとうござ
います。本年も宜しくお願いいたします。

2023年イナテック会社方針

スローガン

『全員の意識改革で生き残りをかけた稼ぐ
体制づくり』

― 抜本的な業務の見直しによる収益力向上
と競争力強化 ―

“ピンチ”が“チャンス”です。2023年も
ウクライナの戦争や中国コロナの影響で、A/
T(パワートレ)の売上も安定しないと想定してい
ます。忙しい時と注文数が少ない時が常態化

し、しかも売上高で年間210億円前後の着
地も想定しております。

そのためには、自動化・ロボット化も実行し
て、固定費を圧縮し、売上高年間210億
も利益の出せる体制づくりが必要になるわ
けです。

つまり売上高が減っても機械の償却が遅れ
るだけですので、改善や節約でのげば良い
のです。その間に、営業が他分野の仕事を得
得し、自動化・ロボット化されたラインで製造
し販売することです。そうすると収益力が
向上した筋肉体質が出来上がります。

キャスティングもチャンス

キャスティングもロボットアームの月間400s
e1生産体制がみえてきた昨今、F社さんの
生産台数が中国経済減速によりスローダウン
する模様です。

しかし、この時こそが今までお断りしてきた
新しいお客様の新しいお仕事に挑戦できるチ
ャンスなのです。今までパン・パンで、とても出来
なかったことがお客様の減産でチャンスが回っ
てきたということです。

さあ果敢に新しい技術に挑戦しましょう。

『働くことの大切さ』 稲盛和夫

これは昨年末に開催した2023年度辞令
式での挨拶で使わせて頂いた一文です。(致知2

022年12月号「利他の心こそ繁栄への道」より)

人は得てして、恵まれた環境にあつても、与
えられた仕事をつまらないと感じ、不平不満
を口にしがちです。(中略)

しかし、それで運命が好転するはずはあり
ません。与えられた仕事を天職と思い、その
仕事を好きになるよう努力していくうちに
不平不満は消え、仕事も順調に進むようにな
っていく。

なぜ働くのか

働くということは、生きていく糧を得るた
めのものだというのが一般的ですけれども、
そうではなくて、自分の人間性を高めていく
ためになくはならないものです。一所懸命

働くことによつて、自分自身の心を高め、自分の人生を精神的に豊かなものにしていく。同時に、収入も得られますから、物質的な生活も豊かになっていく。ですから、働くということは大変大事なことだと思つていきます。

稲盛和夫

2023年新年にあたり、もう一度「働くということ」を考え、人生の原点に返り、この一年を有意義なものとし、全員の意識改革で生き残りをかけた稼ぐ体制をつくり、イナテックグループ全社員とご家族の幸せを実現する年となるよう願つております。

どうか今年一年 宜しく願ひいたします。

イナテックグループ フラボー！

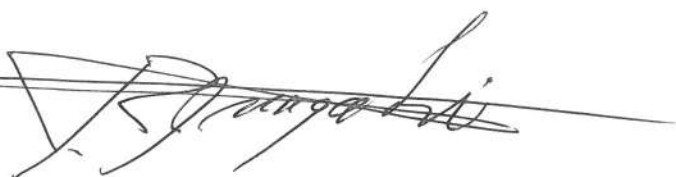
稲垣 良次

菜根譚後集

八四

性天澄徹、即饑喰^{*}渴飲、無非康濟身心。心地沈迷、縱談^{*}禪演偈、總是播弄精魂。

本性さえ澄みきつておれば、たとい腹が減れば飯を食い、のどが渴けば水を飲むという平々凡々の暮らしても、決して身心をすこやかに養つて行けないことはない。(これに反して)、心が暗く沈み迷っておれば、たとい禪を語り偈頌^{ワカ}を唱えていても、全くそれは自分の魂をおもちゃにしているにすぎない。



社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 2
No.354

イナテックCX『コーポレート・トランスフォーメーション』

『コーポレート・トランスフォーメーション』（富山和彦著）をもう一度読み直しました。現在、コロナ第8波が猛威を振るっています。政府は遅きにも今春4月から5月に2種から5種へ、つまりインフルエンザ並みの管理に変えるようです。

このコロナ禍が終息しようとしている今、日本や世界が大混乱を起こして、日本経済や世界経済は疲弊して、もつと深い所に突入し始めていると私は感じています。

これが富山和彦氏の提言してみえる『コロナショック・サバイバル』かと。

※イナテックCX―イナテックグループのあり方の根幹に関わる大変容

このCX(革命)とは破壊と創造である。中大兄皇子や藤原鎌足しかり、源頼朝しかり、織田信長しかり、そして大久保利通や西郷隆盛しかり、破壊役を担った人物の心には鬼が住んでいる。将来世代のためにも、経営者世代の私たちは心を鬼にして破壊王世代になるべし！（富山和彦氏）

まさしく今我々は、「鬼」になり破壊と創造をとにかく高速で回し、経営を数値で結果を出さねばならない2023年に突入しているということなのです。

魔の固定費悪循環サイクル

固定費というのは曲者で、「固定」費なのに放つておくと自己増殖的に増えていきやすい。（中略）

固定費の怖さは、高固定費が慢性化する、その固定費を短期的に薄めるために粗利さえ出していれば薄利の商売でもいいからと、とにかく売上を作る誘因に晒される。営業現場では変動原価すれすれの値下げが横行し、開発部門は売上を前年比で落とさない

ために毎年毎年、小出しの改良商品を出し続け、結果的に前の年の商品は型落ちでまたたく間に値崩れして商品寿命を短くする。結局、開発費用は回収できないまま、・・・高固定費体質は、いわば糖尿病や高血圧のように慢性疾患的に収益構造を悪化させ、稼ぐ力を奪っていく。こんな薄利構造では、真に未来を見据えた腰を据えた開発投資を行えなくなり、成長力も失っていく。重い固定費は、企業の持続可能性を危うくする、まさに重篤な基礎疾患、つまり「サイレントキラー」なのである。

では、どうすればいいのかイナテック

こんな事例があります。今では大阪USJはドイツニーランドを抜きそうなくらい成長していますが、過去USJは、どうしてもドイツニーランドに勝てず「廃業」をも視野に入れないければならない程の時代があったようです。

その時のUSJはお金もなく、社員もギリギリで、ドイツニーランドのようにパレードで踊るスタッフも存在もなかった時です。そこで

USJ社長の旗振りで、皆でどうしたらいいか考えてもらい、出した一策は、パレードのかぶり役はUSJ社員でやろうと決断し、社員全員でパレードダンサーを行った結果、踊りはあまり上手でなかったが、一所懸命さがお客様に伝わり大成功を収めたそうです。

その第2弾がまたおもしろい。今現在ある設備(ジェットコースター)を何と新規投資せずに活用しようと必死に考えた結論が、今のジェットコースターを「バック走行」させるという奇策でした。これも少々問題はあったようですが、お客様には大うけ(後ろ歩きはおもしろい)でした。こんな「人も増やさず、設備投資もせず」これが「USJの文化」になり今では東京ディズニーランドを追い抜くところまで成長したということです。

イナテックの置かれている環境もまさにコロナショックの真つ只中です。出錢を抑え、今ある設備を有効に使い、イナテックグループ社員全員が知恵と身体を使って残り切ります。今年後半(第3四半期)には次のステージが見えて来ます。それまでに必ず効果を出し体質を変えますので、皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

何のために勉強するのか

先月号は「何のために働くのか」がテーマでした。今回も、人間の基本である勉強について日経新聞2022年12月30日の春秋の記事を紹介します。

「おじさん、大学へ行くのは何のためだ」。

受験勉強中の満男が、ふと寅さんに尋ねる。その答えが良い。「長い間生きてりゃあ、いろんなことにぶつかるだろ。そんなとき、勉強したやつは自分の頭できちーんと筋道を立てて、どうしたらいいか考えることができる」

「男はつらいよ」シリーズの第40作「寅次郎サラダ記念日」にこんな名言があった。よい会社に入るためとか、すぐに役立つ技能を得るためとか、寅さんは決して言わないのである。学問というものの意味を説いて、すとんと胸に落ちる言葉ではないか。一人ひとりが地道に築いた知が積み重なり、社会も強くなる。

(日本経済新聞 2022.12.30 朝刊)

菜根譚後集 八五

人心有個眞境、非絲非竹、而自恬愉、不煙不茗、而自清芬。須念淨境空、慮忘形釋、纔得以游衍其中。

人の心には真実の世界というものがあって、琴や笛がなくても、ひとりで音楽を楽しむこともできるし、香の煙や茶の香りがなくても、ひとりで清らかな香りに浸ることもできる。(このような世界に至るには)、まず雑念を去って心を清くし、地位とか身分とかの境縁をむなしくして、思慮することを忘れ、肉体の存在することをも忘れるまでになって、そこで初めてこの世界に遊び楽しむことができるようになる。

今このコロナショックサバイバルの世の中、自分の頭で考え、自分の身体で情報を集め、自分の責任で行動し、自分で責任を取る。そしてイナテックグループを守る。これに尽きる。

参考

○へたなコンサルを入れるより、みんなできつかり勉強して、自分で考えたほうがはるかに安上がりかつ有効である(富山和彦氏)

○修羅場の経営のべからず集

・見たい現実を見る経営

ありのままの現実、自分たちにとって都合で見たくない現実から目をそらしたかじ取りでは危機を乗り切れるはずがない

・空気を読む経営

危機においてはその場の空気ではなく、生き残る確信とそのため合理的で冷徹で迅速な判断力と実行力のみである。